

事務管理に仮想ロボ

昭和リース

優先度高い業務効率化

昭和リース（東京都文京区、清谷清弘社長、03・4284・1111）は、事務管理業務を中心にロボティック・プロセス・オートメーション（RPA、仮想ロボット）を導入する。可能性のある対象業務223件を抽出した。本年度内に優先順位の高い業務から順に100件程度でRPAを導入していく計画。人間とソフトウェアロボットの協働で業務効率化・高度化を図るとともに人的資源をより付加価値の高い業務に移行し、集中させる。



事務管理業務などにRPAを導入

人的資源を再配置

RPAはロボットにより業務を自動化するソリューション。RPAテクノロジーズ（東京都港区）が提供する「英ブルーフォーム」プラットフォームを採用し、既にシステムを本格稼働できる体制を整えた。既存の業務システムにそのまま導入できることから、巨額な導入コストがかからない。

昭和リースは今後、リース物件代金の支払い処理に加え、振り込み入金におけるデータの照らし合わせ作業、期中の支払金額が変動する場合などの変動的

な回収・支払いのスケジュール登録の対応などで導入を検討する。また、RPAを導入した部門の人材を営業など付加価値の高い部門に再配置する。さらに人工知能（AI）の活用による業務フローの効率化も検討する。昭和リースは同じく新生銀行グループ傘下の新生フィナンシャル（東京都千代田区）が出資するセカンドサイト（同）との協業を視野に入れている。